

7.6^土 – 11.10^日

2013年度
コレクション展 **II**

特集 新収蔵品紹介

信濃橋画廊 コレクション を中心に

新収蔵品紹介1 「信濃橋画廊コレクション」*1

新収蔵品紹介2 現代美術 *2

新収蔵品紹介3 近・現代美術 *3



福岡 道雄 *1
《ピンクバルーン》
1966年 / 1986年 再成型



元永 定正 *2
《あおといろいろ》
1995年



小松 益喜 *3
《元居留地風景》
1939年

近いかたち、 遠いかたち

岡普司・重松あゆみ・中西學

小企画
美術のかたち
「目で見る造形」



岡 普司
《THINK THE DEEP FROM THE SOURCE /
源流から海溝を思う》
2006年
木(栗)、鉄(溶断・火造り)



重松 あゆみ
《Green Orbit》
2011年
陶
撮影:後藤 清



中西 學
《アムルタ》
2006年
FRP、アクリル絵具、ウレタン塗料、
透明樹脂、他

特集 新収蔵品紹介

信濃橋画廊
コレクション
を中心に

小画
美術の中のかたち
手で見える造形
近いかたち、
遠いかたち
岡普司・重松あゆみ・中西學

開催趣旨

この度の展覧会には大きな見所が二つあります。

一つ目が、特集“新収蔵品紹介「信濃橋画廊コレクション」を中心に”です。

当館では昨年度、コレクターや作家のご遺族、関係者の方からの寄贈により、640点もの作品を新たに所蔵品としました。特に、信濃橋画廊(1965-2010)の画廊主であった山口勝子氏からは、画廊の活動と並行して収集した現代美術の作品群583点と資料を一括してご寄贈いただきました。

さらに、所蔵品ではありませんが、ご所蔵家からお預かりするかたち(=寄託)で、当館のコレクションに加わった作品群もあります。

今回の特集展示では、これら新収蔵品の中から、「信濃橋画廊コレクション」約160点を含む約180点を、当館の常設展示室で初めてご紹介します。

二つ目は、毎年この時期に開催している、手で触れて鑑賞する小企画「美術の中のかたち—手で見える造形」展です。今年は、いま一度「かたち」をテーマに関西在住の3人の美術家による作品を展示します。

会期等

2013年7月6日(土)～11月10日(日)

休館日:毎週月曜日(7月～9月)

(祝日の7月15日、9月16日、9月23日は開館、翌7月16日、9月17日、9月24日休館)

※神戸ビエンナーレ2013の会期中(10月1日～)は無休

開館時間:午前10時～午後6時

特別展開催中の金・土曜日は夜間開館(午後8時まで)

※入館は閉館の30分前まで

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館の時代より、40年以上にわたって作品収集を行い、収蔵された作品数は9,000点以上に及びます。当館1階と2階の展示室で開催される「コレクション展」では、年3回の展示替えを行いながら、コレクションの名品をさまざまなテーマに分けて紹介しています。

特集では、特定のテーマにしたがって所蔵作品を展示し、美術鑑賞に新しい視点を打ち出します。

小企画は、常設展示室の一角を使った企画展。所蔵作品に外部からの借用作品を加えることで、テーマ性を持った展示を行います。神戸ゆかりの洋画家、小磯良平と金山平三の記念室、さらに20世紀の彫刻/安藤忠雄コーナーとあわせてお楽しみください。

会場

兵庫県立美術館 常設展示室(1階・2階)

観覧料

| 観覧料 | 当日 | 団体 | セット |
|-----|------|------|------|
| 一般 | 500円 | 400円 | 300円 |
| 大学生 | 400円 | 320円 | 240円 |
| 高校生 | 250円 | 200円 | 150円 |
| 中学生 | 無料 | | |

団体料金……20名以上の料金

セット料金……特別展とのセット割引料金

※65歳以上は一般料金の半額

※障害のある方とその介護の方1名は無料

※9月29日(日)まではクールスポット指定期間として各観覧料金の半額

内容

〈特集〉

新収蔵品紹介1「信濃橋画廊コレクション」 展示室1・2・3北

信濃橋画廊の画廊主、山口勝子氏が収集した「信濃橋画廊コレクション」から、版画、絵画、彫刻、オブジェなど約160点の作品、および関連資料を展示します。

信濃橋画廊とは……

1965年、大阪市西区のビルの地下に開廊。運営形態としては、一定の料金をスペースを貸す「貸し画廊」ですが、画廊独自の企画展も開催。開廊記念展は、河口龍夫、福岡道雄、森口宏一ら、当時、新進気鋭の、そして今では関西の現代美術史を語るうえで欠かせぬ作家たち20人を集めた「20人の方法」でした。以後、時流にとらわれず独自の表現を追求する作家や、現代美術を志す若者など、幅広い作り手たちの自由な作品発表の場として、毎週毎週、展覧会が開かれます。ユニークな表現を求め観客やコレクター、評論家の訪れる画廊は、これら関係者たちの交流の場としても機能し、関西では京都のギャラリー16（1962年開廊）と並ぶ老舗の現代美術系画廊として知られてきましたが、2010年、惜しまれつつ45年の歴史に幕を閉じました。

信濃橋画廊コレクションとは……

信濃橋画廊の画廊主、山口勝子氏が、画廊の活動と並行して収集した作品群。平成24（2012）年度、兵庫県立美術館に583点が、画廊の活動に関する資料とともに一括寄贈されました。関西の現代美術作家による作品が大半を占め、同画廊での展覧会の折りに購入した作品をはじめ、作家から譲り受けたものなど、さまざまな経緯で山口氏の手元に集まってきたものと考えられます（同画廊では発表歴のない作品も含まれています）。個人コレクションのため小品が中心ですが、年代としては、画廊の長い歴史を反映し、1960年代から2000年代までを網羅。関西における現代美術の動向をもうかがい知ることが出来ます。また、画廊と作り手のさまざまな関係、ひいては画廊の社会的な役割といった観点からも、興味のつきないコレクションと言えるでしょう。

信濃橋画廊の活動に関する調査研究には、公益財団法人
 ボーラ美術振興財団より助成いただいています。



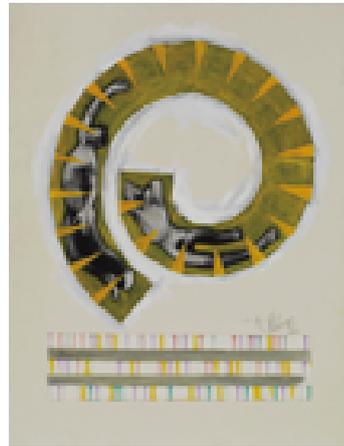
関連事業

対談「すっかり駄目になった僕たち」

平田洋一 × 福岡道雄（いずれも「信濃橋画廊コレクション」出品作家）

10月27日（日）午後2時～午後3時30分

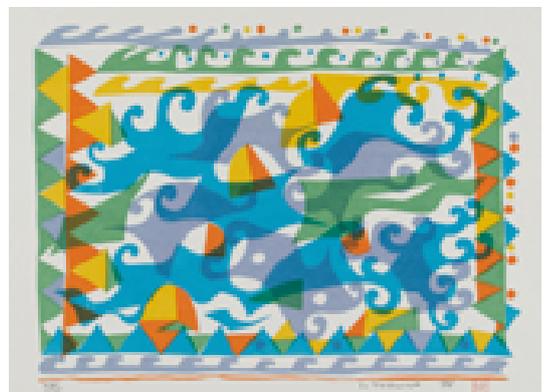
レクチャールームにて 聴講無料・先着順 定員100名



石原 友明
 《Untitled》
 1986年



木村 光佑
 《RELATION（リレイション）》
 1972年

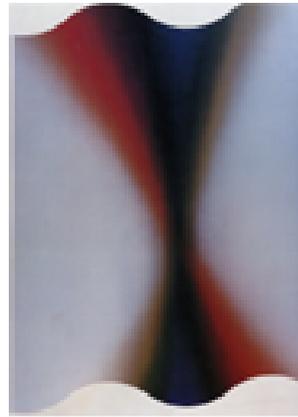


徳野 卯一郎
 《すみのえのなみのかよひじ》
 1996年

〈特集〉

新収蔵品紹介2 現代美術 展示室3南

昨今、欧米でますます評価の高まる前衛美術グループ「具体美術協会」会員でもあった元永定正、菅野聖子や、彼らと同時代を生きた泉茂、久保晃の平面、また昨年度「美術の中のかたち」展に出品された祐成政徳の立体作品を紹介します。



泉茂
《MP20020》
1974年

〈特集〉

新収蔵品紹介3 近・現代美術 展示室6

新たな収蔵品によって、それまでの収蔵品の意義をさらに手強いものにしていくことは、収集活動のひとつの要点です。いくつかの小テーマを設定し、新収蔵品にこれまでの収蔵品を交えて展示することで、そうした収集の側面を考えることにします。

また、兵庫県立第二中学校、兵庫県立第四高等女学校、兵庫県立兵庫高等学校の同窓会「武陽会」から、古家新、小磯良平、田中忠雄、東山魁夷の作品を、新たにお預かりすることになりました。兵庫県を代表するこれらの作家の作品も、本展示室で紹介します。

※日本画は以下の日程で展示替えを行います。

前期：2013年7月6日（土）－9月8日（日）

後期：2013年9月10日（火）－11月10日（日）



新井完
《大野寺弥勒石仏》
1932年

〈小企画〉

美術の中のかたち 一手で見る造形 展示室4

近いかたち、遠いかたち 岡普司・重松あゆみ・中西學一

「かたち」とは一体何でしょうか？このかたち、あのかたちのそれぞれは、一体どうやって生まれる、あるいは現れるのでしょうか？3人の作家のそれぞれの「かたち」に触れていただきます。

※詳細は別紙のプレスリリースに記載していますので、ご参照ください。

20世紀の彫刻／安藤忠雄コーナー **展示室5**

当館の収集の柱のひとつである彫刻から、人の姿を抽象的に表したもののなど、20世紀の彫刻の多様な表現を紹介します。

また当館の設計者である建築家・安藤忠雄の関西でのプロジェクトを模型、写真、映像などで紹介するコーナーを併設します。

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平（1903-1988）は、近代洋画を代表する巨匠のひとりです。卓抜したデッサン力に裏づけされた明るく清明な婦人像の人気は、現在にいたるまで衰えていません。今回は、デビュー作となった《T嬢の像》（第7回帝展出品作）や、戦前の代表作である《斉唱》（第4回新文展出品作）、《肖像》（第5回新制作派展出品作）とあわせて、「武陽会」からお預かりしている《踊り子》（第3回新制作派展）も展示します。

金山平三記念室

神戸生まれの金山平三（1883-1964）は、風景画の名手として知られる近代洋画の巨匠です。信州や東北をはじめ日本各地を写生に訪れ、落ちついた色づかいと巧みな筆さばきで、情感ゆたかに風景を描き出しました。この記念室では、金山の作品を常に展示し、その画業を紹介しています。

関連事業

学芸員によるギャラリートーク

8月10日（土）、9月14日（土） 午後4時～（約40分）

参加無料・要観覧券

ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日曜 午後1時～（約45分）

エントランスに集合 参加無料・内容により要観覧券

※「信濃橋画廊コレクション」「美術の中のかたち一手法で見る造形」展にも関連事業がございます。詳細はそれぞれの当該ページに記載していますので、ご参照ください。

同時開催の展覧会

奇跡のクラーク・コレクション

ニルノワールとフランス絵画の傑作一

—9月1日（日）

生誕130年 橋本関雪展

9月14日（土）—10月20日（日）

昭和モダン 絵画と文学1926—1936

11月2日（土）—12月29日（日）

マリー・アントワネット物語展

7月6日（土）—9月1日（日）

神戸ビエンナーレ2013 横尾忠則展（仮称）

10月1日（火）—12月1日（日）

チャンネル4 小林且典展

11月2日（土）—12月1日（日）

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

特集 新収蔵品紹介「信濃橋画廊コレクション」を中心に

担当学芸員: 江上ゆか・西田桐子

e-mail: egami@artm.pref.hyogo.jp (江上)

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

小企画 美術の中のかたち—手で見える造形—

担当学芸員: 西田桐子・河田亜也子

e-mail: nishida@artm.pref.hyogo.jp (西田)

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



小企画
美術の中のかたち—手で見る造形

近いかたち、 遠いかたち

岡普司・重松あゆみ・中西學

「美術の中のかたち—手で見る造形」展は、兵庫県立美術館が前身の近代美術館時代から毎年開催しているシリーズ展です。1989（平成元）年の初回以来、常設展示室の一室を使い「視覚に障がいのある方に美術鑑賞の機会を」という趣旨のもと続けてきたものです。しかし、そうした趣旨にとどまらず、開始当初から、まずは「見る」ことから始まる美術館の中で、視覚とは何か、造形的な芸術表現の場における他の知覚との関係はどうなっているのか、といった問いを発してみようという意図をあわせもっています。

さて、シリーズ第24回目となる今展では、「かたち」とは何なのかを、今一度考えるため、異なる発想点から異なる材質、技術を使い、制作を続ける関西在住の3人の作家の作品を展示します。

かつてのあのかたち、これからのそのかたち。時空の中での「かたち」を思い起こせば、それらは実に視覚を超えたもののようにもあります。本展の出品作によって、さまざまな「かたち」を体験しながら、「かたち」への想いと思索を多様に広げていただければ幸いです。

関連事業

アーティスト・トーク／重松あゆみ

7月27日（土）午後2時～午後3時30分

レクチャールームにて 聴講無料・先着順 定員100名

こどものイベント／中西學 ワークショップ

8月24日（土）午前10時30分～午後3時30分

アトリエ2にて 要実費 要申込※ 定員30名

アーティスト・トーク&ワークショップ／岡普司

9月29日（日）①午前11時～ ②午後2時～（各1時間30分）

アトリエ1にて 要参加費 要申込※ ワークショップ定員各7名

共催：兵庫県立美術館「芸術の館友の会」

※申込方法等、詳しくは当館ホームページをご覧ください。

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

2013年7月6日（土）—11月10日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室（1階）

主催：兵庫県立美術館

後援：兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市・神戸市教育委員会・兵庫県社会福祉協議会・神戸市社会福祉協議会

※〈特集〉新収蔵品紹介「信濃橋画廊コレクション」を中心にと同時開催

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

小企画 美術の中のかたち—手で見る造形—

担当学芸員：西田桐子・河田亜也子

e-mail: nishida@artm.pref.hyogo.jp（西田）

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

岡 普司
Shinji OKA

1958年 鳥根県生まれ
京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了



岡 普司
《THINK THE DEEP FROM THE SOURCE /
源流から海溝を思う》
2006年
木（栗）、鉄（溶断・火造り）

今回は、作者が長年扱ってきた鉄、再生パルプ、木による作品を展示します。作者の身体が材質に直接はたらきかけることのできたかたちで、そこには運動の熱量と時間が封じ込められています。

主な展覧会・受賞

- 1980年 「京都アンデパンダン展」(京都市立美術館) (81年～85年)
- 1983年 ギャラリー 16 (京都) で個展 (88年)
- 1984年 「第16回京都野外彫刻展」(京都府立植物園)
「第9回京都彫刻美術展」で奨励賞
- 1986年 信濃橋画廊 (大阪) で個展 (10年まで、93年、09年を除く毎年)
- 1987年 「倉敷まちかどの彫刻展」(倉敷市) で新人賞
- 1989年 「第13回現代日本彫刻展」(宇部市) コンクール部門に入選
- 1996年 「アート・ナウ'96 / 在ることの根源へ」(兵庫県立近代美術館)
- 2006年 ギャラリーアーティストロング (京都) で個展 (08年)

重松 あゆみ
Ayumi SHIGEMATSU

1958年 大阪府生まれ
京都市立芸術大学大学院美術研究科
陶磁器専攻修了



重松 あゆみ
《Green Orbit》
2011年
陶
撮影:後藤 清

一見シンプルに見える作品ですが、かたちとその中に広がる空間は、視覚ではつかみがたく、色彩とあいまって私たちを「迷い」の中に誘いこみます。視覚ではない別の知覚ではどうでしょうか？

主な展覧会・受賞

- 1982年 京展市長賞
ギャラリーマロニエ (京都) で個展 (91年)
- 1984年 ギャラリー白 (大阪) で個展 (02年、03年、04年、08年を除く毎年)
以後東京、京都、神戸、四日市などで個展多数
- 1989年 「国際陶磁器フェスティバル'89美濃」で審査員特別賞
- 1993年 「現代の陶芸1950-1990」(愛知県美術館)
- 1998年 「「かたち」の領分—機能美とその転生—」(東京国立近代美術館工芸館)
第10回倫雅美術奨励賞
- 2001年 茨城県陶芸美術館開館記念展「現代陶芸の精鋭」
平成13年度兵庫県芸術奨励賞
- 2002年 岐阜県現代陶芸美術館開館記念展「現代陶芸の100年」
- 2003年 「大地の芸術—クレイワーク新世紀」(国立国際美術館、大阪)
- 2011年 「現代陶芸の地平を拓く」(兵庫陶芸美術館)

中西 學
Manabu NAKANISHI

1959年 大阪生まれ
大阪芸術大学芸術学部美術学科絵画専攻卒業



中西 學
《アムルタ》
2006年
FRP、ウレタン塗料、透明樹脂、他

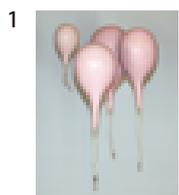
今回出品していただく《アムルタ》は、2006年の個展「原始のスーパー共時性—」の出品作のひとつで、生命誕生の神話に想を得たものです。

主な展覧会・受賞

- 1983年 番画廊 (大阪) で個展 (89年、95年、97年、99年、03年)
- 1985年 「アート・ナウ'85」(兵庫県立近代美術館) (86年、90年)
- 1987年 「第4回 吉原治良賞美術コンクール展」コンクール賞
- 1990年 平成元年度 大阪市「咲くやこの花賞」(美術部門〈現代美術〉)
- 1992年 「今日の作家シリーズ25 - 中西 學 展」(大阪府立現代美術センター)
- 2000年 信濃橋画廊 (大阪) で個展 (02年、04年、05年、06年、07年、09年、10年)
- 2006年 海岸通ギャラリー CASO (大阪) で個展「原始のスーパー共時性—」
- 2010年 大阪市中央公会堂3階特別室で個展「星雲のサーキット」
- 2013年 創作活動30周年展として番画廊 (大阪) で個展
ギャラリーあしやシュール (兵庫) で個展
ラズギャラリー (大阪) で個展 (予定)

広報用画像データ一覧

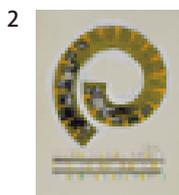
※下記画像を媒体掲載されるときには、下記の**作者名・作品名・制作年**を必ず記載してください。(10のみ撮影も必要)



1 福岡 道雄
《ピンクバルーン》
1966年 / 1986年 再成型



7 小松 益喜
《元居留地風景》
1939年



2 石原 友明
《Untitled》
1986年



8 新井 完
《大野寺弥勒石仏》
1932年



3 木村 光佑
《RELATION (リレイション)》
1972年



4 徳野 卯一郎
《すみのえのなみのかよひじ》
1996年



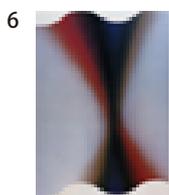
9 岡 普司
《THINK THE DEEP FROM THE SOURCE /
源流から海溝を思う》
2006年



5 元永 定正
《あおといろいろ》
1995年



10 重松 あゆみ
《Green Orbit》
2011年
撮影: 後藤 清



6 泉 茂
《MP20020》
1974年



11 中西 學
《アムルタ》
2006年

〈特集〉

新収蔵品紹介 「信濃橋画廊コレクション」を中心に

〈小企画〉

美術の中のかたち一手で見る造形 近いかたち、遠いかたちー岡普司・重松あゆみ・中西學ー

広報画像申込書
営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-090

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 TEL (078) 262-0905 (直通)

ご希望の写真の番号に○をつけてご返信ください。後日データ(.jpg)をお送りいたします。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|

| | |
|--|------------------------------|
| 貴社名 | |
| 媒体名 | 新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット |
| ご担当者名 | |
| ご住所 | 〒 |
| TEL | FAX |
| メールアドレス | @ |
| URL | |
| 掲載・放送予定日 | |
| 写真到着日希望 | |
| 読者・視聴者プレゼント用招待券(最大 10 組 20 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです) | 組 名分希望 |
| メールマガジンをお持ちですか？ | はい・いいえ |
| メールリストをお持ちの場合、当館の展覧会・イベント 情報等を送信していただく事は可能ですか？ | 可・不可 |

※ 画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。

※ 媒体掲載されるときには、作者名・作品名・制作年を必ず記載してください。(10 重松あゆみのみ 撮影 も必要)

※ 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

※ 展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。